令和６年度　伊那市立西春近南小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
『恕』の心をもって 自己の生き方を拓く子どもの育成	十人十色 安全で、安心できる学校
	今年度の重点目標
	（１）学び合って高めよう
	（２）ちがいを認め、思いやろう
	（３）地域を学ぼう

総合評価

○学校教育目標『『恕』の心をもって、自己の生き方を拓く子どもの育成」を教育活動の柱に据え、一年を通して、行事や教育活動を進めるにあたってその都度目標に立ち返って考えながら活動を展開してきた。子どもの意識に『恕』の心が根付いたことを感じさせるような、思いやりを表出する姿が様々な面で見られる用になっている。
○昨年度に引き続き、学習や生活、諸行事において、個に応じた適切な指導と必要な支援を行うことを全職員で進めてきた。新しい学習形態に挑戦するなど、職員の意識の変容も見られ、学校アンケートでも「授業のわかりやすさ、楽しさ」の評価が児童、保護者ともに90%以上が「十分」「概ね十分」と答えている。
○今年度も、地域の方々や保護者の温かいお支えにより、地域の中での活動が充実した。特に、西春近南保育園との子どもたちとの連携・協働体制を深めたり、地域の方々との関わりや子どもが主体となってコミュニティー作りを模索したりすることができた。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴「伝え合うこと」に焦点をあてて授業作りや学習展開を進めてきた。学校アンケートからは、児童で「十分」「概ね十分」から「やや不十分」への割合の変化があった。保護者からは「やや不十分」から「概ね十分」「十分」への変化があり、児童と保護者の評価が分かれる結果となっている。	A b	○自分の考えを伝えることができる基礎的な国語力と同時に、誰のどんな考えも受け入れる態度の両面に焦点を当てて学習や生活の中で力を伸ばしていく。 ○ICT を活用した表現の機会づくりやそれにより互いに思考を深められる活動展開の工夫についてもさらに有効に活用できるよう考えていく必要がある。
⑵日常授業や諸生活、行事等で、一人一人の活動の良さやがんばりを様々な形で認め合うことができた。異年齢による活動や人権旬間（５月）・月間（11 月）の学習でも多様な価値に触れる機会を設けてきている。特別に支援が必要な児童についての理解や接し方、支援について、今後も大事に考えていきたい。	A b	○学級生活、児童会活動、縦割り班活動、地域活動等の中で、個々の考えや立場の違いを認識できる場を設定し、自分事として関わらせ、評価することを続けていく。 ○特別支援学級の児童だけではなく、通常学級内で学習面や情緒面等で特に配慮が必要な児童本人やその周りの児童への支援指導を細かに検討する機会を取っていく。
⑶交流作業やふくじゅ園、保育園、地域の方々とのコミュニティー作りが実施できた。学校アンケートでは、児童約９０%、保護者は約８０%が「十分」「概ね十分」の評価をしているが、今後も更にその内容を充実させていきたい。	A a	○地域から学ぶ、地域の方々とつながる、など、地域に根ざして体験学習等を行える機会を意図的に仕組みながら、計画的にできる限り多くの機会を設定し、その良さを実感したり紹介したりして学校全体で共有できるようにしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○チャレンジタイム・全校読書・子どもと向き合う時間などの教育課程の工夫	○チャレンジタイム・全校読書・子どもと向き合う時間など教育課程の工夫を生かし、子どもの個性や能力を伸ばしたり子どもとの関わりを深めたりすることができたか。	○これまでの取り組みにより、朝読書が定着しており、どのクラスでも、どの子も読書に没頭する姿が見られている。 ○毎学期位置づけている「子どもと向き合う日」では、児童一人ひとりと担任が個別に面談し、相談を受けたり支援をしたりしてきた。	A a	○「子どもと向き合う日」はアンケートも活用し、内容を充実させ、さらに職員間で情報を共有し、児童の心身の様子等について連携して理解して支援に努めていく。 ○チャレンジタイムは、児童の主体性を育みながら、内容（基礎基本や探求）・進め方・評価について職員で情報共有しながら充実を図っていく。
		○児童の実態・意欲を考慮した教育課程の展開	○学校生活で、『恕』思いやりの心を育てたり、本物に触れ心を豊かにしたり、体力を向上したりする教育課程を展開することができたか。	○縦割り班の諸活動や南風っ子まつりなどを通して、異年齢の児童との関わりの場を多く取ることができた。児童が中心的に企画し、上級生が下級生への意識を持ちながら主体的に進める姿が見られた。更に心豊かにできる体験を大事にしていきたい。	B b	○児童会や全校での参集の活動を、児童が主体的・対話的に活動・体験を進め、相互評価を含めて取組の価値づけをしていく。 ○今年度実践した保育園園児との協働や校内での異学年交流の良さをさらにいろいろな学習場面や活動に位置づけていく。
	学習指導	○指導要領に則した年間指導時数の確保	○指導要領に照らし合わせ各教科等の年間指導時数を確保し、指導時間の過不足がないように計画的に指導できたか。	○年間行事予定の作成段階から、行事や活動の見直しや精選を進め、『恕』の心の育成に立ち返っての教育活動を視点に見通しを持った教育課程を編成している。	A a	○教材研究を充実させることで、児童の実態に合わせた学習展開を工夫するとともに、より個に応じた指導計画を練り授業を行っていく。支援員の配置も継続させたい。 ○行事に関わる活動時間を検討するとともに、生活科や総合的な学習についても、「つける力」を明確にして年度当初から見通しをもちながら進めていくようにする。
		○基本的な学力向上のための授業改善	○１時間の主眼を明確にすることで、本時「つける力」を意識した授業づくりを行うとともに、まとめ（一般化）・みとどけのある授業を展開することができたか。	○教科担任制を視野に入れ、授業交換を試行した。授業構想での「つける力」の明確化や追究過程の工夫を考え合うことができてきている。更に、個々の児童の実態を把握し、個別最適な学びへの支援について、日常的な意見交換の場（職員の対話）づくりをしていく必要がある。	A a	○他クラスの授業を担当したり、連学年等で教材研究をしたりすることを通して、全職員で全校児童を育てていくことを具現していく。 ○お互いに授業を見合ったり、放課後、短時間でも時間を生みだし日々の授業の悩みや方策を語り合ったりする機会を大事にしていく。
			○学習問題（学習課題）・まとめのカードを用いた板書に心がけ、授業の流れにめりはりのある場面を位置づけることができたか。	○「南小スタンダード」（学びのスタイル）の活用について、児童の実態や各学年の発達段階に応じて柔軟性をもちながら見直していきたい。	B b	○「南小スタンダード」の見直し（児童や教師の願いや現在の姿を確認する）を図り、日々の学習・指導に活かせる仕組みを考え充実させてていく。
		○伝え合う力の育成	○返事・発言・聞く姿勢などの授業のルールを確立するとともに、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて再度自分の考えを述べたりするなど学年に応じた伝え合う力を付けることができたか。ICT(情報機器活用)等を積極的に活用し、表現したり、伝えたりすることができたか。	○ＩＣＴ機器（iPad）の授業中での使用や持ち帰りを般化し、日常的に活用することができている。個別最適な学びにつなげる使い方についてさらに深めていく必要がある。	A a	○ペア学習やグループ学習など積極的に取り入れ、児童間のコミュニケーションを活発にし、お互いの思いや考えを伝え合える授業・その評価を工夫していく。 ○伝え合う力、発信する力をつけていくために、ICT 機器を有効的に活用（共同閲覧機能、共同編集機能、プレゼン機能等）した授業を更に推進していく。
	生徒指導	○児童理解に基づいた指導	○児童の気持ち・心情に寄り添った対応を心がけることができたか。 ○学校内をはじめ、家庭との連携が密にされているか。	○担任はもとより全職員で、児童と関わり合いをもつことを大事にし、日常的に話題にしてきた。児童の様子や気になる姿については、職員会議や学年会、支援会議を通して、継続的に職員全体で共通理解し児童への支援につなげてきている。	A a	○今後も家庭との連絡体制を密にし、信頼関係を築いていきたい。また、丁寧で素早い対応・支援をめざして、校内全職員が情報をできるだけ早く詳しく共有し、検討・実行できる校内支援体制を整えていく。
		○学校目標に基づいた適応指導や人権感覚の育成	○学校生活全般から児童たちと共に考える適応指導ができたか。 ○「いのち」や「心」の醸成をはじめ、あいさつやマナーの意識向上を図る指導ができたか。	○子どもの状況を把握し、「恕」の心について、朝の会や帰りの会、学級の時間で学年の発達段階に応じて具体的に指導してきている。また、いじめに関わる事象に関しては、気になったことをすぐに報告し合って対応し、その後の様子についても留意した。	B b	○異なる意見や行動に出会ったとき、受け入れることの大切さや関わり方の具体について考え合う場面をつくり、「恕」の心を具現できる子どもたちに育てていく。 ○いじめをはじめとする「困った状況」が起きたときに、ＳＯＳを発信する方法に関する指導も引き続き行っていく。
学校運営	安全	○安全の確保	○具体的な場面（火災・地震・交通・廊下歩行・遊び）を想定して、安全指導を適時行うことができたか。	○避難訓練や引き渡し訓練、年６回の集団下校訓練で、児童は真剣に参加でき、防災・安全に対する意識・行動力を高めることができた。職員研修は、事前・本番と２度の不審者対応訓練を行うことができた。家庭や地域と連携をとりながら備える必要がある	A a	○安全安心の学校をめざして、家庭・地域に向けて、更に学校から呼びかけていく。また、日常のヒヤリハット事例の研修やアレルギー、けが等の緊急対応訓練の機会を確保し、職員の危機管理意識を高めながら具体的な対応力をつけていく。
	地域との連携	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材化や、保護者・地域の方々に協力していただいた活動、保育園や中学校と連携した活動を展開することができたか。	○学年ごとの校外・体験学習、高学年の交流作業、クラブや読み聞かせなど、地域の方々に協力していただき人材を活用して、今年度も充実した活動ができた。 ○南保育園と南小学校の地域連携組織を「南風っ子を育てる会」として一体化して２年目。子どもを中心に据えた連携・協働に向けて協力体制を深められている。	A a	○「南小応援隊」（支援ボランティア）の募集や教師側の活動計画（願い、内容、推進方法等）を充実させ、地域の人材リストの拡張・活用を行っていく。地域の方と学校とで「目指す子ども像」を擦り合わせる機会を気軽に設け、活動を共にしていきたい。 ○教員の働き方改革の一助として、支援ボラさんへの協力をお願いしていきたい。

		○おたより・懇談会や参観日・地域との諸会合を通しての情報公開や学校理解	○学校だより、学級だよりなどの家庭通知により、学校の様子を積極的に知らせることができたか。 ○学校公開・授業参観等を通じ、学習指導について保護者・地域の方々に理解してもらえたか。	○保護者には、学校公開日、保護者懇談会、各種講演会等に来校していただいた。アンケート「学校の様子を知らせている」の項目で「十分」「概ね十分」が 97%と、保護者から高い評価を得ることができた。 ○地域、同窓会の方々には、作業やボランティア活動を通して理解を進められている。	A b	○「地域と共にある学校」を目指し、「南風っ子」（学校だより）や学校行事、学校公開日などの「案内通知」を地域の回覧板や全戸に配付することを継続していく。 ○学校全体や子どもたちの様子について、南風っ子を育てる会、同窓会の会議において報告するとともに、保護者や地域に発信していけるように、学校だよりやホームページの内容について充実を図っていく。
	研修	○研究・研修の工夫・改善	○自己課題に沿って日々の授業改善（ねらいの明確化・シートの使用等）に努めることができたか。 ○研究会・研修会を通して専門性の向上や自己の修養に励むことができたか。	○自己課題及び校内研究、職員研修によって、専門性の向上を図ってきた。 ○非違行為防止に関り、校長からの話や研修、講師を招聘しての講演を行うとともに、教務会において委員会を行うなど、今年度も根絶への取組を継続してきた。	B b	○非違行為根絶のためさらに職員同士で声を掛け合ったり、研修会を持ったりする。 ○地域に出て地元の方に学ぶ、児童理解・学級経営、人権教育、ICT、防犯・安全などに関わる職員研修を年間計画に位置づけ実施していく。